

テキストは、各科目のまとめの前に、各科目に共通する「合格の最重要ポイント確認事項」や「重要人物と歴史」を括りだして、最初に試験直前の勉強のポイントや頻出事項の確認を行い、そこから各科目の記憶の整理を一気に深めていく構成となっています。

科目共通の重要なポイントを確認！

重要項目や覚え方をおさえておくことが肝心です。

無断転載・頒布を禁じます

LEC 東京リーガルマインド

合格の最重要ポイント確認事項 (科目共通)

① 人物は全科目で出題の可能性あり。「人物+キーワード+名言+著書名」をセットで覚える。

② 心理学の実験 → 実験名+人物+どういうことを導きだした実験か+キーワード

③ 約束や宣言等歴史的な事項は順番が問われることが多いので、縦軸で年表のような表で覚える。

④ 数字は重要 → 職員の数、施設の部屋の大きさ、収容人員など。

⑤ 日本が条約を批准した年号を覚える。→ 批准は、国家が条約に拘束されることに同意する手続き。法律と条約では条約が上位。国内法を改正して条約を批准する流れとなる。日本では、国会での承認後天皇の認証を受け内閣が実施。(→ 年月が経つことが多い。)

(補足) 日本は、条約に関して、憲法に対しては劣位。法律に対しては優位する効力を認めている国。「憲法」は国の最高法規であり、法律の上位に位置する。また、「憲法」とは国民による国家に対するルールである。「法律」とは国家による国民に対するルールである。法律は、最高法規である憲法を犯さないように制限されながら立法されている。などの基本も確認しておく。

⑥ 法律系では法定化された年号などを覚える。

⑦ 年号は全て覚える必要はないが、重要な項目の年号を中心に前後などの項目の順番を覚える。(主要法律の制定された順番を年号順に覚える。最近この出題多い。)

人物や歴史は頻出事項です。

科目をまたいで出題があります。整理して覚えておくことが重要です。

子ども観	内 容
前説	子どもの体や思考・感情は、初めから大人と同じようにつくられており、子どもと大人との間には、何も本質的な違いはない。
環境説 (ロック (Locke, J.))	子どもは生まれたときには白紙 (タブラ・ラサ) のような状態であって、すべての知識の起源は外的感覚経験と内的反省にあり、子どもは経験によってどのような形にも変化し得る。
自然説 (ルソー (Rousseau, J. J.))	子どもは、自然の計画に従って、自ら学び、成長していく力をもっているのであり、子どもには子ども自身の感情や思考がある。
成熟理論 (ゲゼル (Gesell, A. L.))	子どもの発達は、その出生前も出生後も、遺伝子の作用によって方向づけられる。(心理学第1章参照)

頻出事項を確実な知識にする

「ポイント」(頻出事項)を確実なものにしておくことが重要です。



遺伝論

→ ポイント

- ・ ゲゼル (Gesell, A. L.) - 成熟優位説
双生児統制法による階段登りの実験

遺伝論とは、発達の基本的な様態と順序は環境によって変わることはなく、人が生まれながらにもう遺伝的な素質や生物学的な要因が、一定の秩序で時間の経過に伴って自然にあらわれてくるという考え方です。

遺伝論の立場に立ち、成熟優位説を掲げたのは、アメリカの発達心理学者・ゲゼル (Gesell, A. L.) です。ゲゼルは、トンプソン (Thompson, H.)とともに、双生児統制法による階段登りの実験を行い、発達には早い時期からの訓練が必ずしも有効とはならず、レディネス (成熟状態) に到達する以前に訓練を行

TERM
レディネス
ある行動を習得するためには必要な条件(身体的・生理的成熟、興味、関心、知識など)が準備されている状態をいう。